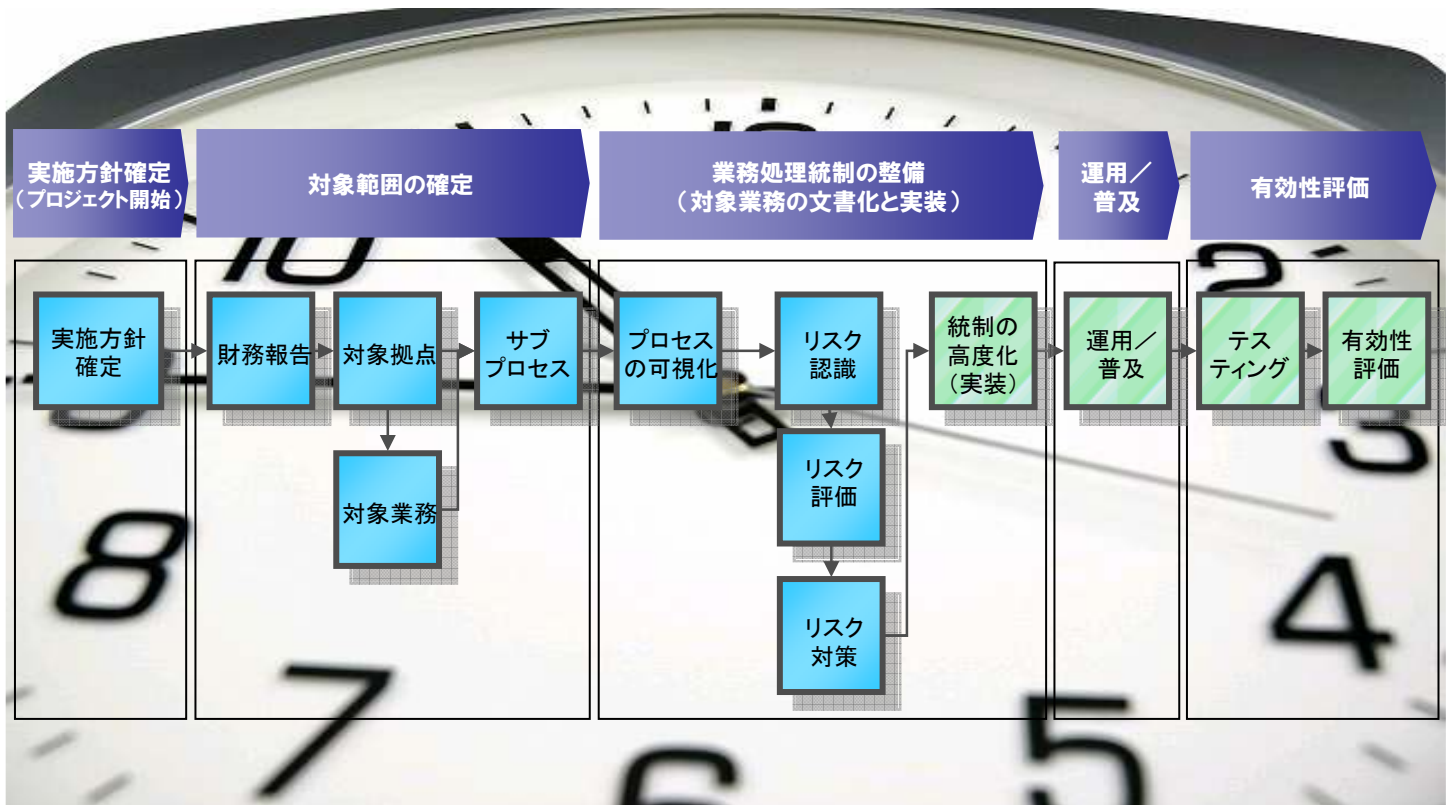


内部統制高度化支援ソリューション

経営視点の納得感のある内部統制高度化が実現可能

上場企業は2008年4月以降の新しい事業年度から内部統制報告書の作成と提出を義務付けられており、子会社や関連会社におきましても対応が求められる可能性があります、準備期間はわずかしか残されていません。



既に先行企業に対して、内部統制並びに日本版SOX対応を実施しているコンサルティング会社の方法論を核に、統制において実施すべきポイントと手順を順序良く、効率的に、また外部から納得感を得るためのロジックを業務処理統制の高度化支援ツールとして実装しています。

特長

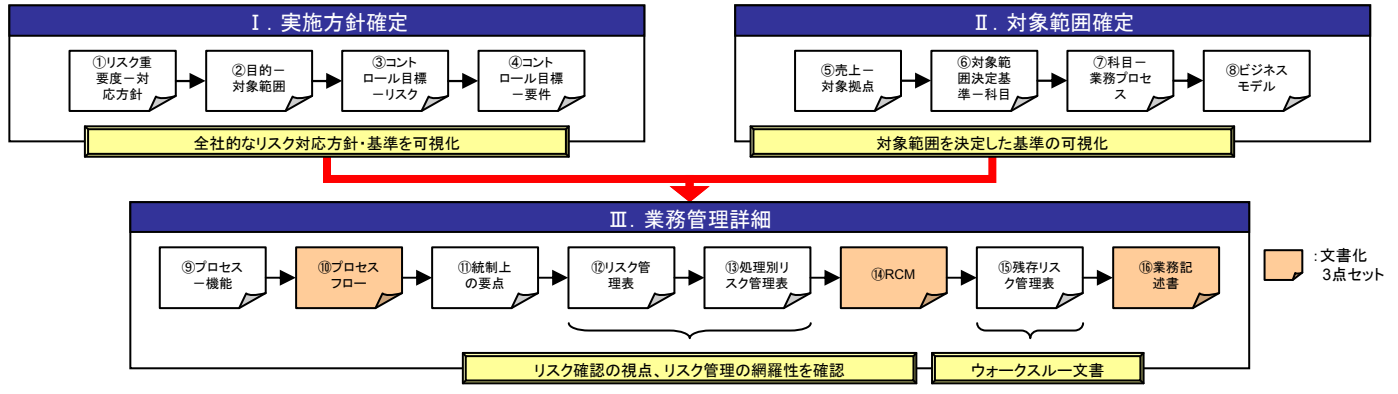
- ①実施基準をベースにしたツールの提供
- ②文書化作業を一連の流れ(ワークフロー)で支援
- ③内部統制の整備におけるプロジェクト管理機能の提供
- ④文書管理・バージョン管理機能の提供

導入効果

- 《整合性・容易性》
ワークシートに従った情報の入力で、整合性の取れた文書化3点セットの作成が可能
- 《効率性》
文書化にかかる作業の効率化が可能
- 《プロジェクト管理の適切性》
部門・全社レベルでの内部統制整備状況のプロジェクト管理が可能
- 《維持コスト》
翌年以降の内部統制にかかるコストを低減

機能概要

各フェーズで作成されたコンサルティング会社のワークシートを順番に記述することによって、業務処理統制において必要な文書化3点セットを容易に作成することが可能です。



機能詳細

I. 実施方針確定

実施方針の確定では、リスクの発見、リスク対策に対するポリシーの決定を行ないます。全社的なポリシーを決定することにより、実際のプロセスのリスク対策の妥当性、網羅性を確認する視点を提供します。



II. 対象範囲確定

対象範囲の確定では、統制を行なう対象となる業務を決定します。対象範囲の決定に際しては、統制対象となる業務を決定する際の決定基準を明確にし、記録することが重要となります。

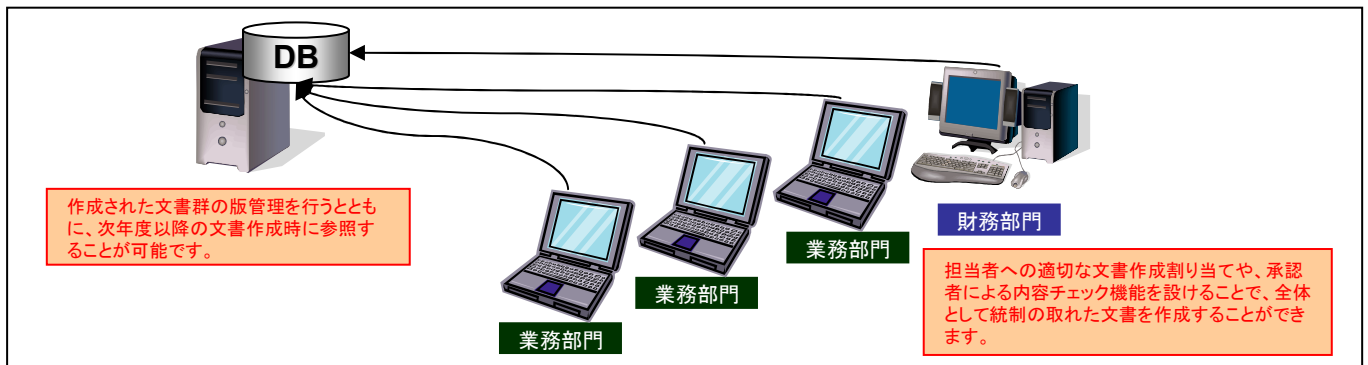


III. 業務管理詳細

個別の業務に対して業務プロセスの可視化、業務プロセス内で想定するリスクの可視化、想定するリスクに対する対策を可視化します。各可視化のフェーズでは、実施方針確定で決定した全社的な方針に基づき、透明性の高いリスク対策が実施可能となります。



導入イメージ



動作環境

システム要件 (サーバ)

システム要件 (サーバ)	
プロセッサ	Intel Pentium III 600 MHz 以上または同等の互換プロセッサ (1 GHz 以上を推奨)
オペレーティングシステム	Windows 2003 Server SP1 Windows 2003 Enterprise Edition SP1
メモリ	512 MB 以上のメモリ (1 GB 以上を推奨)
ハードディスク	推奨構成でのインストールの場合 約120 MB のハード ディスクの空き容量
ドライブ	CD-ROM または DVD-ROM ドライブ
ディスプレイ	Super VGA (最小で 1,600x1200 ピクセル) 以上の解像度のビデオ アダプタおよびモニタ
その他の要件	Microsoft Internet Explorer 6.0 SP1 以上 Microsoft Internet Information Services (IIS) 5.0 以上、および ASP.NET 2.0 以上